

4月19日

テーマ：主との格闘

聖書箇所：創世記32章13節～32節

◆今日のみことば

“そこでヤコブは、その所の名をペヌエルと呼んだ。「私は顔と顔とを合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。”創世記32章30節

◆メッセージ

不安なことがある時、どうしたらいいのでしょうか。逃げ出す？でも、逃げられないこともあるよね。ヤコブさんは、20年ぶりに故郷に帰るため、家族と多くの家畜を連れてとても長い旅をしていました。帰るのは、神さまの約束でしたね。ヤボク川を渡れば、なつかしいお父さんお母さんがいる家がずっと近くなります。どんなにその日を待ち望んでいたことでしょうか。でも、川の岸辺でヤコブさんの足がピタリと止まって動きません。お兄さんに会わなければならないことを恐れたからです。エサウ兄さんは、ヤコブさんの言ったことで腹を立て、ヤコブさんを殺そうとしました。それからずいぶん時間がたっているのですが、ヤコブさんは自分のことをゆるしてくれているかどうか、とても不安でした。お兄さんに会うために、よく考えて贈り物も準備しました。

その夜、あたりが真っ暗い中で、神さまの使いとヤコブさんとの格闘が始まりました。ヤコブさんは、不安の中で神さまに祝福を求めて叫びました。そう、この格闘は、ヤコブさんの祈りでした。夜が明けそうになっても、ヤコブさんはしがみついて離れませんでした。神さまの使いは、ヤコブさんのもものつがいを打ちました。もものつがいとは、足の関節のことで、ここを打たれたことでヤコブさんはびっこをひくようになりました。それでも、ヤコブさんは手を離しませんでした。「どうか、私を祝福してください」。神さまの使いは言いました。「あなたの名前は、ヤコブ（つかむ。自分の力でつかむ者）ではなくて、イスラエル（神さまと格闘する者）だ。あなたは、勝った」。勝った？でも、もものつがいははずされたまま。ヤコブさんは、弱くされたことで、人をだましたり、自分の都合や考えで事を進めるのではなく、神さまだけに頼るようになりました。自分の力や考えでは、不安や心配が付きません。でも、神さまが祝福してくださるなら大丈夫！ヤコブさんは、不安から喜びの心に変えられていました。



◆お祈り

「神さまの祝福を求めます。恐れや不安のときにも喜びに満たされて歩めるようにしてください。」  
(仙台のぞみ教会牧師 秋山善久)